

第5号議案 名誉会員の推薦の件

平成 21 年 3 月に開催された第 45 回の理事会の決議により、小川 克郎氏ならびに毎熊 輝記氏を名誉会員に推薦します。

小川氏の当学会での活躍は以下のとおりです。

小川氏は、1985 年から 2003 年まで理事を、1990 年、1991 年には副会長を、1992 年及び 1998 年には会長を、また、創立 50 周年記念行事特別委員会 委員長を務められる等、長期間にわたり積極的に学会活動に尽力されました。

研究発表や論文投稿は多岐にわたり、特に、空中磁気や地熱探査に関する研究、ACROSS 等を長年研究し、1978 年には「線形法による全磁力断面の自動解析」で物理探査学会論文賞を受賞されています。

小川氏はまた優れた教育者であり、地質調査所ならびに名古屋大学における在職中は、後進の指導、次世代を担う人材の育成に尽力され、優秀な技術者を数多く育てています。

このように小川氏は学会運営、研究、人材育成に活躍される等、物理探査への貢献は多大です。

なお、小川氏は平成 21 年度春の叙勲において瑞宝中綬章を受章されました。

毎熊氏の当学会での活躍は以下のとおりです。

毎熊氏は、1996 年から 2003 年まで理事を、また、1973 年から企画、行事、編集の各委員会 委員を、さらには地盤探査研究会の代表幹事等を長年にわたり務められる等、積極的に学会活動に尽力されました。

研究発表や論文投稿は多岐にわたり、特に、SH 波や微動の研究を精力的に進め、1979 年には「SH 波発生装置の改良」で物理探査学会論文賞を受賞されています。

毎熊氏はまた優れた教育者であり、埼玉大学ならびに早稲田大学における在職中は、次世代を担う人材の育成に尽力され、優秀な技術者を数多く育てています。

このように毎熊氏は学会運営、研究、人材育成に活躍される等、物理探査への貢献は多大です。

以上